

第三次生物多様性国家戦略(案)の概要

—人と自然が共生する「いきものにぎわいの国づくり」を目指して—

【生物多様性の重要性】

いのちと暮らしを支える生物多様性

- ①すべての生命の存立基盤 —酸素の供給、豊かな土壌の形成など—
- ②将来を含む有用な価値 —食べもの、木材、医薬品、品種改良、未解明の遺伝情報など—
- ③豊かな文化の根源 —地域色豊かな文化や風土、全てのいのちを慈しむ自然観など—
- ④暮らしの安全性 —災害の軽減、食の安全確保など—

【課題】

- 第1の危機 ・開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少
- 第2の危機 ・里地里山などの手入れ不足による自然の質の変化
- 第3の危機 ・外来種などの持ち込みによる生態系の攪乱

地球温暖化による危機 —逃れられない深刻な問題—
・多くの種の絶滅や生態系の崩壊

【長期的な視点】

100年先を見据えたランドデザイン

- ・生物多様性から見た国土のランドデザインを、国土の生態系を100年かけて回復する「100年計画」として提示

【多様な主体の参画】

地方・民間の参画

- ・地域での活動に結びつけるため、地方や企業による取組の必要性を強調

※生物多様性国家戦略とは

生物多様性条約に基づき、生物多様性の保全と持続可能な利用に関する基本的考え方と政府の施策を体系的に示した計画

基本戦略